

単施設研究用

研究課題名 Spur Valve 付加肝門部空腸吻合術の有用性の検討に関する情報公開

1. 研究の対象

2013年10月1日から2021年12月31日の期間で、当院にて胆道閉鎖症と診断され、腹腔鏡下肝門部空腸吻合術を施行した患者を対象とします。

2. 研究目的・方法・研究期間

○目的 胆道閉鎖症の治療として行われる肝門部空腸吻合術後の長期予後に影響する因子として、術後胆管炎があります。術後胆管炎の発症リスクを下げることを目的として様々な術式の改良法が報告されておりますが一定の見解が得られていないのが現状です。当院では、術後胆管炎の原因として言われている肝門部空腸吻合部への腸液の逆流を防止する目的で、肝門部空腸吻合術時に Spur valve を付加する術式を近年採用しております。本研究では、Spur valve を付加することが、実際に術後胆管炎の発症を抑え胆道閉鎖症の予後の改善に寄与しているかを評価することを目的とします。

○方法 2013年10月1日から2021年12月31日の期間で、当院にて腹腔鏡下肝門部空腸吻合術を施行した患者を対象とし、Spur valve を付加した群とそうでない群の2群の分け、術中術後経過および予後について、患者背景、周術期経過、退院後経過、予後について診療録より後方視的に検討します。

○研究期間

2022年3月17日（実施承認日）から2023年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：患者背景（病歴、術前体重、術前日齢、採血など）、周術期経過（手術時間、出血量、採血、腹水量、合併症など）、退院後経過（採血、胆管炎発症数など）、予後（肝移植の有無）

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科病態外科学講座 小児外科学

研究責任者名 住田 互

住所 名古屋市昭和区鶴舞町 65

電話 052-744-2959 FAX 052-744-2980